

In の基本義の拡張の程度 ——抽象的拡張的意味の不透明性——

田 中 実*

The Extent of Extended Basic Meaning of “In”: The Opacity of Extended Abstract Meaning

Minoru TANAKA

要 旨

英語前置詞 in の認知的意味の基本義、その拡張の程度の研究。語の基本義（コア的意味）は、理論上すべての語義を網羅するものである。だが、具体的面においてすらも、基本義からはかなりの程度逸脱している。それでも、認知的には基本義内と言えそうである。抽象面における用例では、基本義の反映を見出すには極めて難しいものがある。あえて見だしても、そこに無理を感じてしまう。具体的、抽象的用法で拡張的な例では、メトニミー的な関係が見出される。つまり、全体で部分を指すような場合である。

キーワード：英語前置詞 in, 認知言語学, 基本義, 拡張用法, メトニミー

1. 序論（研究の目的）

最近では認知言語学的发展もあり、多くの英語辞書、英語文法参考書が、そうした研究成果を踏まえた形で編纂されている。

そうした認知言語学のアプローチでは、本研究で扱う英語前置詞 in などの場合は、その基本的意味とそれを図式化したものが使われるのが特徴である。さまざまな語義（多義）は、基本語義の展開、拡張したものとして示される。

この in の基本語義の展開、拡張の程度について、その具体的用法に関しては、Lee (2001)

*准教授 英語学・英語教育

にある程度示されている。だが、その抽象的用法における展開、拡張の程度に関してはほとんど示されることはない。ここで言う意味展開、意味拡張の程度とは、基本義からの距離、基本義との類似性、関連性の程度のことである。通常は、暗に意味分類の形で示されている。関連性の低い用法のものは後の方で提示される。

本研究の目的は、前置詞 *in* を取り上げて、その基本語義からの意味の拡張の程度を具体的用法と抽象的用法の両者を考察することである。具体的用法については先触れたように Lee (2001) でも論じられているが、ここではもう少し詳細に調べてみたい。さらに、抽象的用法の拡張については、一体どのようなものであるかをここで考察、論じてみたい。

2. *In* の基本義

語彙の基本義として、ここではすべての語義の中心にあり、文脈に依存しない中核的な一つの意味のことを指す。こうした認知的アプローチの草分け的な田中茂範氏はコアの意味と呼んでいる (田中茂範 1990)。

2.1 *In* の基本義

Lee (2001) によれば、

IN

“The basic function of *in* is to refer to a situation where one object (the ‘trajector’) is contained within another (the ‘landmark’).” Lee (2001: 19)

また、『E-Gate 英和辞典』(以下、E-Gate と呼ぶ)、そして『わかるから使えるへ表現英文法』(田中茂範, 2013) (以下、表現英文法と呼ぶ) では、単に「空間内に」という「コアの意味」、すなわちここで言う基本義が与えられている。

通常、この基本義を図式化したイメージとして下記のような図 (図1) が提示されている。「立方形」の中に球があるのは、あるもの (トラジェクター) が「3 次元的」に囲むもの (ランドマーク) の中に入っていることを示しているのであろう。

2.2 *In* の基本義の意味展開、意味拡張

以下では、*in* の基本義の意味展開、意味拡張をまず具体的用法と抽象的用法に分ける。そ

In の基本義の拡張の程度

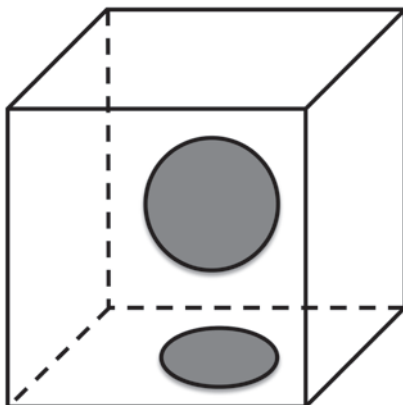


図1 in の基本義のイメージ図式

して、それぞれを基本義からの距離によって、次の3つに分ける。

具体的用法については、(1) 基本義を忠実に反映した、あるいはそれに比較的近い具体的「基本」用法、(2) 具体的「中間的拡張」用法、そして (3) 基本義とのわずかな関係しか持たない具体的「周辺の拡張」用法に分類する。なお、Lee (2001) は、Herskovits (1986) から引用して、次のような in の具体的空間的用例においても、基本義のものから基本義とはわずかな類似性しか持たない用法があることに触れている。

- (1) the cat *in* the house
- (2) the bird *in* the garden
- (3) the flowers *in* the vase
- (4) the bird *in* the tree
- (5) the chair *in* the corner
- (6) the water *in* the vase
- (7) the crack *in* the vase
- (8) the foot *in* the stirrup

(1) から (8) の例の方に進むに従って、in の基本義から遠く離れていく。(8) においては、足は stirrup (あぶみ) のわずかな部分しか入っていない。in に基本義の元になる「容器性」は stirrup にはほとんど見ることはできない。もっとも、日本語でも「あぶみに足を入れる」とは言うことができる。

抽象的用法については、(1) 基本義をそのまま抽象的、比喩的に反映する抽象的「基本」用法、(2) 抽象的「中間的」拡張、そして (3) 基本義とは関係性距離が離れた抽象的「周辺の拡張」用法に分ける。

2.2.1 In の具体的「基本」用法

基本義のコアを忠実に表している場合はもちろん、それに比較的近いものがそうである。あるもの（トラジェクタ）が3次元的空間（ランドマーク）、2次元的空間（ランドマーク）の中に入っている状況を示すものである。以下では、Lee は Lee (2001)、Wisdom は『ウィズダム英和辞典』を指す。

- (9) the dog *in* the house (Lee)
- (10) There were five women *in* the room.
- (11) He seems to have something *in* his hand.

- (12) the dot *in* the circle 円の中の点（表現英文法）
- (13) find his name *in* a magazine. (Wisdom)
- (14) sit *in* a back seat (Wisdom)
- (15) a bull *in* the field（表現英文法）
- (16) winter *in* the Arctic（表現英文法）

上記の例は、3次元的にしろ2次元的にしろ、空間内、平面内に対象物全体が入ってしまう場合である。

2.2.2 In の具体的「中間的拡張」用法

- (17) the bird is flying *in* the garden
- (18) We were walking *in* the rain.
- (19) stand *in* the dark (Wisdom)
- (20) Don't stay *in* the sun too long. (Wisdom)

(17) は、鳥が庭の上空それほど高くはないところ、すなわち庭の一部を構成してと思われる

In の基本義の拡張の程度

庭の上のところを飛んでいることを示している。庭をもとにした認知的な空間ができあがっていて、その中をという意味である。(18) から (20) も、そこに示されている容器としての空間は認知的なもので、実際上の境界を示すものはない。

(21) the bird *in* the tree (Lee)

(22) grasshoppers *in* the grass (E-Gate)

(21) は木の枝の端をつないだものが容器的な空間を作り、(22) ではある程度の高さを持つ草の上端が草の容器的空間を作っている。

(23) the chair *in* the corner (Lee)

(23) の隅 (corner) の表す空間も認知的に作られてものである。

(24) a truck *in* the road 道をふさいでいるトラック (「路上のトラック」は a truck *on* the road) (表現英文法)

(24) では、road をどう捉えるかである。括弧の注にもあるように「路上」と捉えれば *in* ではなく *on* が使われる。ここでは、道路という表面の両側も含めて、チューブのように捉えられている。

(25) the muscles *in* one's legs (表現英文法)

(26) He found a worm *in* the apple. (E-Gate)

(25), (26) では、足 (leg), リンゴ (apple) は容器ではないが容器として捉えられている。

(27) The sun rises *in* the east.

(28) He is walking *in* the direction of the station. (表現英文法)

(27), (28) では、east も direction (方向) も実際には容器的なものではない。「東という場所」はまだ認知的に理解できるが、direction (方向) を容器的に捉えるのは、少しばかり違和感が

ある。

(29) an article *in* the newspaper (E-Gate)

(29) では、確かに article (記事) は物理的に newspaper に含まれる。単純に何ページもあるうちのあるページの 2 次元空間の中であれば、全体を表す the newspaper を使用するのをおかしい。新聞自体は 1 枚の 2 次元空間 (平面) ではない。そのうちの 1 枚の平面の中となる。その場合、メトニミー的表現になるであろう。そうすると基本的用法ではなくなる。また、新聞全体を取りあげて 3 次元空間として見ているのであれば、記事という厚さを持たないむしろ抽象的なものが入っているのはやはり基本的用法とは言いがたい。その記事が新聞のトップページあるいは最後のページあるかもしれない。

(30) a Santa Claus *in* a red coat (E-Gate)

(31) She was dressed *in* expensive clothes. (Wisdom)

(32) a man *in* black 黒い服の男 (Wisdom)

(30) が *in* の中心義をはっきり表してサンタが赤いコートにすっぽり入って、着ぐるみが移動しているような風であれば、具体的「基本」用法であろう。だが、単に「赤色のコートを着て」というのであれば、コートは容器的性格というよりは、体に付けるというように感じられ、この用法は基本義から外れる。(31), (32) でも同様のことが言えるが、(30) 以上にすっぽりと入っている感じは低い。

2.2.3 In の具体的「周辺の拡張」用法

ここでの用例は、基本義、そのイメージ図式からかなり外れるが、それでも認知的には *in* の基本義の守備範囲とみなされるものである。

(33) the flowers *in* the vase (Lee)

図 2 が示すように、花と言ってもその一部しか花瓶には入っていない。しかも、主要な「花」の部分は花瓶の外にある。しかし、認知的、語用論的に花瓶に入っていると言う。



図2 The flower in the vase (Lee 2001:12)



図3 The foot in the stirrup (Lee 2001:13)

- (34) a man *in* a black hat (◇ここでの *in* には何かおおっているという感じがある)
(E-Gate)
- (35) a woman *in* high-heeled shoes (◇「足がハイヒールにすっぽり入っている」様子を
in で表現) (E-Gate)

(34), (35) は, (33) と同様, 人全体は帽子, 靴の中に入っていない。ほんの一部, 頭, 足の部分だけで, *in* を使うには極めて周辺の用法と言える。メトニミーとして解釈できるかもしれない。ただ, メトニミーであれば, 全体で一部を指し, その一部が *in* の関係にあるということだけであるので, (34), (35) にあるような補足は不要かもしれない。

- (36) the foot *in* the stirrup あぶみにかけた足 (Lee)

すでに触れたが, 足のほとんどの部分はあぶみ (stirrup) からは出ている。それでも, やはり認知的, 語用論的に足はあぶみに入っていると言う。図3を参照。

- (37) the crack *in* the vase (Lee)

(37) では, ヒビ (crack) は花瓶の中の空いた部分にはいつているわけではない。花瓶を作る「厚み」の中に入っている。花瓶などの厚みのところは容器的性格 (空間性) が低い。通常はそうは考えない。したがって, 周辺の用法である。

2.3.1 In の抽象的「基本」用法

具体的状況には、様々な位置関係が存在する。前置詞 *in* を使用するかどうかの選択は、そうした位置関係を、言語（英語）使用者である人間が *in* の意味（基本義）の守備範囲として捉えることができるかどうかである。現にある状況を、数少ない前置詞で割り振らなければいけないため、例えば *in* の基本義の守備範囲から遠く離れていても、他の前置詞に比べてこちらの方が適切であれば、こちらが使用されることになる。したがって、周辺の拡張例も出てくる。それも不思議ではない。だが、抽象的事象への適用では、具体的位置関係に対するものではないので、具体的適用の場合のような無理な適用は必要ないのではないと思われる。

以下は、抽象的、比喩的な *in* の使用例ではあるが、認知的に *in* の基本義を比較的忠実に反映している。

まず、「状態・様態」が容器的なモノとして捉えられる場合である。

(38) I'm *in* trouble (cf. out of trouble)

確かに *trouble* という状態は抽象的容器として捉えることは可能であり、I'm *in* trouble. と言えば、確かに *trouble* という状態の中にある。そして、そこから抜け「出し」たいと思う場合は、I want to get *out of* trouble as soon as possible. と言える。このような *in* の使い方はかなり生産的と思われる。例 (38) 及び (39) ~ (45) を参照。

(39) Cherry blossoms are *in* full bloom. (E-Gate)

(40) Long skirts are *in* fashion. (E-Gate)

(41) Water is *in* short supply. (E-Gate)

(42) The business is *in* the red. (E-Gate)

(43) She slapped him *in* anger. (E-Gate)

(44) He buried gold *in* secret. (E-Gate)

(45) I did my homework *in* earnest. (E-Gate)

(46) *in* my opinion 私の見解では (Wisdom)

(47) lack *in* experience 経験が足りない (Wisdom)

(48) There are some good points *in* him. (E-Gate)

In の基本義の拡張の程度

(46), (47), (48) の例は, 「状態・様態」でなく, 「領域」を示していると考えられる。次の用例 (49) ~ (55) も「領域」として解釈できる。

- (49) The box is one meter *in* length. (E-Gate)
- (50) ten centimeters *in* depth (Wisdom)
- (51) There is a big difference *in* shape between the two. (E-Gate)
- (52) Beans are low *in* fat and rich *in* fiber. (Wisdom)
- (53) *In* reality, it's easier to criticise than create. (E-Gate)
- (54) *In* general, Japanese people like sushi. (E-Gate)
- (55) *In* a sense, his story is true. (E-Gate)

(56) のように最上級表現で使用される *in* も「領域」である。

- (56) She is the tallest *in* the class. (E-Gate)

次の (57) ~ (68) が示すように, 「所属・従事・活動」を意味するような例も数多い。

- (57) He was once *in* the French club. (E-Gate)
- (58) The president has only been *in* office for a few months. (E-Gate)
- (59) patients *in* (the) hospital 入院患者 ((英) では the は省略) (E-Gate)
- (60) lie *in* bed 床についている (Wisdom)
- (61) *in* school 在学中で (Wisdom)
- (62) *in* ((米) the) hospital 入院中で (Wisdom)
- (63) *in* the confusion, he escaped その混乱の最中に彼は脱走した (Wisdom)
- (64) be *in* the game 試合に出る (Wisdom)
- (65) play *in* A's latest film A の最新作の映画に出演する (Wisdom)
- (66) engage *in* a contest 競技に参加する (Wisdom)
- (67) be *in* the navy 海軍に入っている (Wisdom)
- (68) Ed is *in* broadcasting [show business]. エドは放送 [ショービジネス] の仕事に携わっている (Wisdom)

次の (69) から (76) はいわゆる「時」を表す *in* の用例である。確かに、*in* の意味を反映してある程度の時の長さ（量の多さ）を表現している、あるいはそれを感じることができる。

- (69) She was born *in* 1980.
- (70) *in* (the) spring
- (71) She is *in* her seventies.
- (72) *in* my childhood
- (73) We often go skating *in* winter.
- (74) *In* the morning, my father drinks milk.
- (75) I often wake up *in* the middle of the night.
- (76) We had the hottest summer *in* 30 years.

2.3.2 *In* の抽象的「中間的」拡張用法

In の基本義とのつながりが見えなくはないが、明瞭ではない用例である。

- (77) List the names *in* alphabetical order. (E-Gate)
- (78) *in* the order of age (E-Gate)

上記2つは、「～の順という『領域』」と考えられなくもないが、抽象的に捉えた「領域」と考えてみても、明瞭に「領域」とは言いがたい。というのは、*order*（順）は、線的（1次元）だからである。次の (79), (80) も「『数千という領域』の中で測られる」, 「『自分の成功という領域』において自慢する」は理解はできるが、わかりやすくはない。やはり、「中間的」拡張だと思われる。

- (79) The numbers were measured *in* thousands. その数は数千にもなった (Wisdom)
- (80) glory *in* one's success 成功を自慢する (Wisdom)

2.3.3 *In* の抽象的「周辺の」拡張用法

In の基本義から大きく拡張し、その基本義とのつながりがほとんど見えないような用法、用例である。

(81) speak *in* English

例 (81) について, E-Gate, 表現英文法には「英語という言語空間内」という補足がつけられているが, かなり拡張した解釈と思われる。

(82) Please fill out the form *in* ink.

(83) write *in* chalk [pencil] (Wisdom)

(82) は, 「インクの中で」はもちろん, インクという領域も納得のいく説明にならない。なお, (83) において write *in* pencil と言うように, pencil には冠詞がつかず, 可算具体名詞として使われていない。では, 質量名詞 (mass noun) かというと, 質量名詞の pencil は考えられない。つまり, 抽象名詞として扱われている。それゆえ, この節で取りあげている。上記の ink, chalk も質量名詞ではなく抽象名詞である。Ink, chalk, pencil という書く「抽象的手段」という意味になるのであろうが, どうしてそれが *in* によって表現されるのか理解しがたい。

(84) pay *in* cash (cf. by credit card [check]) (Wisdom)

(84) においても, cash は抽象名詞として扱われていると考えられる。だが, それがどうして *in* で表現されているのはわからない。これも極めて周辺の拡張の用例である。実際, credit card, check の場合は *by* によって表される。

(85) *in* a line 一列になって (E-Gate)

(86) sit *in* a circle 輪になって座る (Wisdom)

(87) a story *in* two parts 2つのパートに別れる話 (E-Gate)

(88) The office was divided *in* two. オフィスは2つに区切ってあった (Wisdom)

(89) She puts her hair up *in* a bun 髪を束髪にしている (Wisdom)

(85), (86) では, 列の中にあったり, 輪の中にあるわけではない。(87), (88) では, 二つの部分に分けれるのがどうして *in* なのか。(88) では, 人の髪の一部が bun の中にあるわけではない。

(90) Income tax is thirty pence *in* the [(米) on] pound. 1 ポンドにつき (Wisdom)

「1 ポンドの『領域』において」とは理解しがたい。したがって、基本義の反映を見ることはできない。

(91) believe *in* God

(91) の *in* は通常「存在」を表すと言う。だが、よく考えてみれば、どうして「存在」なのかはよくわからない。基本義である *in* の「容器性」「包摂性」との関係、つながりを見出すことはできない。Believe me. であれば、「『私の言うこと』を信じろ」で、Believe in me. であれば、「『私という人間』を信頼しろ」という意味である。私という人間が存在するかどうかは問題にならない、その存在は当然ながら前提になっている。では、(90) における 'God' とは、西洋が通常考えるように一種のパーソナリティを持った「人格神」のことを言っているのだろうか？ それなれば、「『神 (人格神)』の中に信頼を置く」というような意味になり、少なくとも「中間的」拡張の用法と考えることができるであろう。

ところが、次の (92) の例を見ると、やはり「存在」を問題にしているとも思われる。その場合は、やはり「拡張」の用法である。

(92) If you believe *in* God, do you believe *in* ghosts? (E-Gate)

時間を表す *in* の用法はすでに上記で見たが、下記のはかなり異なる。

(93) I'll be back *in* two hours.

(94) I could solve this problem *in* five minutes. 5分で解ける (所要時間)

いわゆる「経過」「所要時間」を表している。確かに two hours, five minutes は一定の時間の幅を持つ、つまり抽象的 (時間) 空間を持つものとして理解できる。その意味で、*in* の基本義と整合性を持つことができる。だが、その時間「内」という意味でない。「2時間内」にでも「5分内」という意味でもない。その意味では、within two hours, within five minutes と表現される。ここでの *in* が two hours, five minutes といったような抽象的時間空間と何らかの関係を持っているかもしれないが、やはりそれは極めて不透明で「拡張的」用法と考えざるを得ない。

3. ディスカッションとまとめ

具体的用法の場合でも、抽象的用法の場合でも、用例によっては中心のか拡張のかどこに分類するか難しい場合がある。したがって、筆者とは異なる分類を考える場合もあるであろう。だが、本論での重要な点は、in の意味（基本義）の拡張の程度を考察することである。その意味で、上記の in の用法、用例の分類は大きな問題とはならないであろう。

上記でも指摘したが、in の具体的拡張用法のうち (34) a man in a black hat, (35) a woman in high-heeled shoes は、メトニミーを利用したものである。同様のことであるが、Langacker の言う参照点構造を利用したのもであるとも言える。人を指しながら (reference point)、実際には目標 (target) として人の頭、足を指している。

具体的用法の場合には、その周辺の拡張例も in の基本義との認知的つながりを見出すことができる。できるから、in として表現されていると言える。だが、抽象的用法の周辺の拡張例では、上記で見てきたように、in の基本義とのつながりがかなり希薄である。つながりが見出せないものの中には、現在では基本義との関係が不透明になってしまったが、過去において in で表現される動機づけを持ちながら、歴史的経過の中でそれが不透明になってしまったものもあると考えられる。また、中には単純にさほどの理由はなく「慣用的」な用法なのであろう。

上記で考察したように、in の抽象的「周辺の」拡張例は、基本義とのつながりはまったく不透明である。このことは、in のような語義を認知的アプローチから記述しようとする場合、注意を払う必要があることを示している。前置詞 in の例で言うと、一つの中核語義ですべての語義を関連づけて説明尽くすことは不可能ではないかと思う。

今後の課題としては、その他の英語前置詞について同様の考察を行うことが必要である。

参考文献

- 田中茂範, 2008, 『文法がわかれば英語はわかる!』, NHK 出版, p.197
田中茂範, 2013, 『わかるから使えるへ 表現英文法』, コスモビア
中川右也, 土屋知洋, 2011, 『「なぜ」がわかる動詞+前置詞』, ベレ出版
田中茂範, 1990, 『認知意味論: 英語動詞の多義の構造』, 三友社.
Herskovits, Annette, 1986, *Language and Spatial Cognition: An Interdisciplinary Study of the Prepositions in English*, Cambridge University Press, Cambridge.
Kövecses, Z., 2002, *Metaphor: A Practical Introduction*. New York: Oxford University Press.